

英文レター誌「SOLA」の現状報告と投稿のお願い

SOLA 編集委員長 三上正男 (気象研究所)

気象学会電子レター誌「SOLA」は、2005年1月7日に最初の論文が公開されて以来、2008年10月1日現在までに161論文を公開することが出来ました。

SOLAの編集委員体制は、7月より第35期の新体制となりました。第35期運営部会では、SOLAの現状の把握と、投稿・審査・公開システムの技術的な点検を行ってきました。本稿では、それに踏まえ、SOLAの現状と今後について簡単に報告いたします。

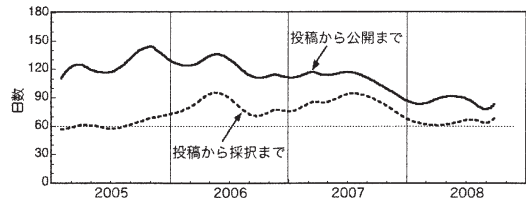
SOLAの投稿受付は、2004年10月1日より開始しました。以来、毎年50～80本の論文が投稿されています。また、公開された論文は、2005年から2007年までがそれぞれ、53、45、35本を数え、2008年は10月1日現在で28本となっています。2005年から2007年にかけて公開論文数が減少していますが、今年下半期以降は再び増加の傾向にあります。

SOLAは、「大気科学全般と大気科学を含むクロスオーバー領域における先端分野の研究成果を、電子媒体により広くしかも迅速に読者に伝達し、学術的な情報交換に貢献すること」を目的としています。このため、投稿後2ヶ月以内の採択と迅速な公開を発行の一番重要な原則としてきました。発刊以降現在に至る投稿から採択までの所要日数と投稿から公開までの所要日数の変化を見てみると(第1図参照)、以下のような傾向を見て取ることが出来ます。

- (1) 投稿から公開までの日数は、2005年後半以降次第に減少し、現状は、ほぼ3ヶ月前後となっている。
- (2) 投稿から採択までの日数は、一時期3ヶ月程度となっていたが、今年に入ってから2ヶ月前後へと減少している。

このように、レター誌の使命でもある速報性については、当初SOLA運営部会で目標として掲げた2ヶ月以内の採否決定と3ヶ月以内の公開に次第に近づいてきています。

いっぽう流通性については、SOLAは2008年5月



第1図 SOLA 投稿から採択 (点線) および投稿から公開 (実線) までの日数 (5サンプル移動平均)。

に Impact Factor の調査会社であるトムソンロウタス社の Web of Science への登録が認められました。また、プラットフォームを提供する J-Stage (科学技術振興機構・科学技術情報発信・流通システム) では、他の学術データベースへのリンクなど国際誌としてのプレゼンスを高めるための様々な取り組みを進めているところです。

SOLAは速報性と流通性を高めるため、Webベースの電子版として発行しています。SOLAでは電子ジャーナルの特質を生かして、動画や大容量の画像など様々な形態の情報を電子付録 (supplement file) として最大4つまで添付することが出来ます。運営部会としては、冊子版の論文とは異なるこうした新しい機能を活用した投稿を期待しています。また、レター誌の重要な役割として、まとまった研究成果の報告に加え、最新の研究結果や試み、新しい観測実験結果などを速やかに学会内外に流通させる事も期待されています。SOLA運営部会では、こうした役割と期待を満たすために、現在の発行形態に安住することなく、よりよいレター誌にすべく今後ともシステムの改良と見直しを続けたいと思っています。学会員諸氏におかれましても、新しい発表媒体である電子レター誌 SOLA への意欲的、積極的な投稿を今後ともよろしくお願いいたします。